

所属・資格 総合文化研究室・教授

申請者氏名 滝澤 雅彦

研究課題		台湾文化の重層的構造と日本～学校教育に関する比較文化の視点からの考察
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>①研究目的：国際社会の一員、アジアの一員としての日本人の真の国際化とは何か、ということについて、学校教育に視点を当て、これからの学校教育、道徳教育、社会科教育、国際理解教育の在り方を、比較文化の視点から考察する。</p> <p>②研究概要：グローバル化が進展し、東京オリンピックを控える我が国を訪れる外国人の中で上位を占める台湾、また、多くの日本人の渡航先として上位を占める台湾、東日本大震災後、いち早く、かつ最大の支援を行ってくれた台湾。台湾の人々の日本理解の理由について、これまでの諸研究では行われてこなかった学校教育の視点から探る。</p> <p>一方、日本人は台湾のことをどのように見てきたか、理解しているかについても、従来にはなかった学校教育の視点から分析を行う。これら学校教育に視点を当てた比較文化論的考察から、日本人の真の国際化とは何かということについて提言を行う。</p>
	研究の結果	<p>①台湾の人々の日本理解の理由について、学校教育の視点から探るため、現地におけるフィールドワークを行った。この中で、台湾の教育行政及び学校管理職の考え方を理解するための関係諸機関（台湾政府教育部、中華民国教育会、台湾省教育会及び国立台湾師範大学）との接点を持つことができた。</p> <p>このことによって、今後の研究に向けての研究対象の明確化と、今後実施予定のアンケート調査等の研究を実施する際の具体的な支援を得ることができるとなった。</p> <p>②これからの学校教育の在り方についての考察に関して、2つの視点からの研究を行なった。その第1は、最も新しい学校教育の課題の1つとして、最近クローズアップされてきた「多様性の尊重」に対する研究である。特に、在留外国人の急増に伴う学校教育における多文化共生の課題をテーマに、異文化としての外国文化を背景に育ってきた外国人児童・生徒と、それを受け入れる側である日本人児童・生徒が共に学び育つ学校教育の今後のあり方について研究を行い、成果として発表した。</p> <p>第2は、これからの学校教育を担っていく若手教員の抱える諸問題について、具体的な問題の把握を行ったうえで、それらの課題の背景を示したうえで、具体的な解決方法について、若手教員のみならず、ベテラン教員、管理職、保護者、教育行政各機関及び保護者に対して、提言を行い、成果として発表した。</p>
	研究の考察・反省	<p>①研究の考察：第1に、昨年度の実践を踏まえ、本年度は、学校教育に関する比較文化の視点からの研究を行うことを最優先課題として取り組んだ。その結果、台湾におけるフィールドワークとしての現地各教育機関・教育関係団体への訪問を通して、学校教育における日本と台湾との比較研究の可能性と、次年度への研究の見通しを持つことができた。</p> <p>第2に、グローバル化が進む世界における日本の学校教育の課題に対する研究と提言について、次年度、多文化共生社会における学校教育に関する考察に繋げる所存である。</p> <p>第3に、若手教員の抱える諸課題に対する考察と提言によって、今後、本学部の教職センターにおける指導に活用し、さらに研究を進めていく所存である。</p> <p>②反省：昨年度の実践を踏まえ、本年度は、まずは台湾における学校教育に関する比較文化の視点からの研究に着手することができたが、一方で、この研究に関して、日本台湾学会等の学会発表に繋げることができなかった。来年度以降の研究において、研究スケジュールを念頭に工夫・改善の上、取り組む所存である。</p>

<p>研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所</p> <p>研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者</p>	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>①研究発表：日本台湾学会及び日本生徒指導学会における発表準備に取り組んだが、スケジュール管理の都合上、学会発表には至らなかった。次年度には、発表を行う所存である。</p> <p>②研究成果物： i : (論文)「新しい時代に求められる学校教育とは～多様性への対応」 「日本教育 10月号」2019年10月1日発行 (日本教育会)</p> <p>ii : (論文)「多文化共生と生徒指導」 「月刊生徒指導 2020年1月1日発行 (学事出版)</p> <p>iii : (単著)「若手教師お悩みあるある 100」 2020年4月1日発行予定 (教育開発研究所)</p>
--	---